

明治32（1899）年大阪市南区鰻谷中之町に生まれる。今宮中学校から四高を経て大正12年東京帝国大学建築学科卒業。同年4月内務省より都市計画東京地方委員会事務取扱を委嘱された。その年に関東大震災が発生、帝都復興院から復興局技師に転じ、上司の指導により帝都復興計画中主として幹線道路網の原案作成に従事した。大正14年大阪府警察技師を命じられ昭和2年地方技師・大阪府建築監督官となる。この後約15年間は主に建築線係主任として大阪市・堺市のスプロール化防止と健全な郊外開発のため、地主等を勧誘して110を超える土地区画整理組合の成立を主導。既成耕地整理組合の設計に建築線指定を加えて土地区画整理事業並みに改造し、多くの土地会社経営地の設計を指導する等、当時の郊外新建築敷地の造成に努力した。昭和17年愛知県警察部建築課長に転出している。

戦後は昭和22年内閣技官兼地方技官に就任、戦災復興院愛知建築出張所長となり、愛知県建築部長も兼任した。この在任中に県下罹災4都市の復興計画を確定し復興施設予定地内の建築を完全に抑制したこと、復興計画の早期完成を授けたとの自負心ともなっていた。愛知県在職中の昭和23年東京帝国大学より工学博士の学位（論文；地方都市建設の史的研究）を授与された。後年の述

懐によれば「空襲の激化した時期に論文資料を抱えて頻繁に防空壕に出入した」とか。建築基準法施行直後、建築主事等を勤めた後、昭和26年8月に官界の生活から去った。官公吏としての傍ら、昭和4年から同17年までの13年間、関西高等工学校一夜間課程（現大阪工業大学の前身）非常勤講師として建築法規等を講じたが、教育上の関心と情熱は生涯にわたり持ち続けた。第2次大戦中から旧制名古屋工専等でも非常勤講師を勤めたが、昭和31年大阪工業大学教授に就任、学部・大学院で都市計画等を担当。船場島之内育ちの大坂弁で、やわらかく厳しく若者を教育した。教育・著作等の研究活動のほか、学外での審議会等で諸種の役職に就き積極的に行動した。昭和46年大阪工大名誉教授となり、同51年には財団法人大阪住宅センター理事長に就任した。同59年10月自宅にて逝去の直前まで審議会での審議内容に意を配り、蔵書類の大学への寄贈を指示されるなど、人生を生き尽くされた。

